

市民会館再整備ワークショップ（2019年9月7日）

# 藤沢市民会館の 歴史と果たしてきた役割 について

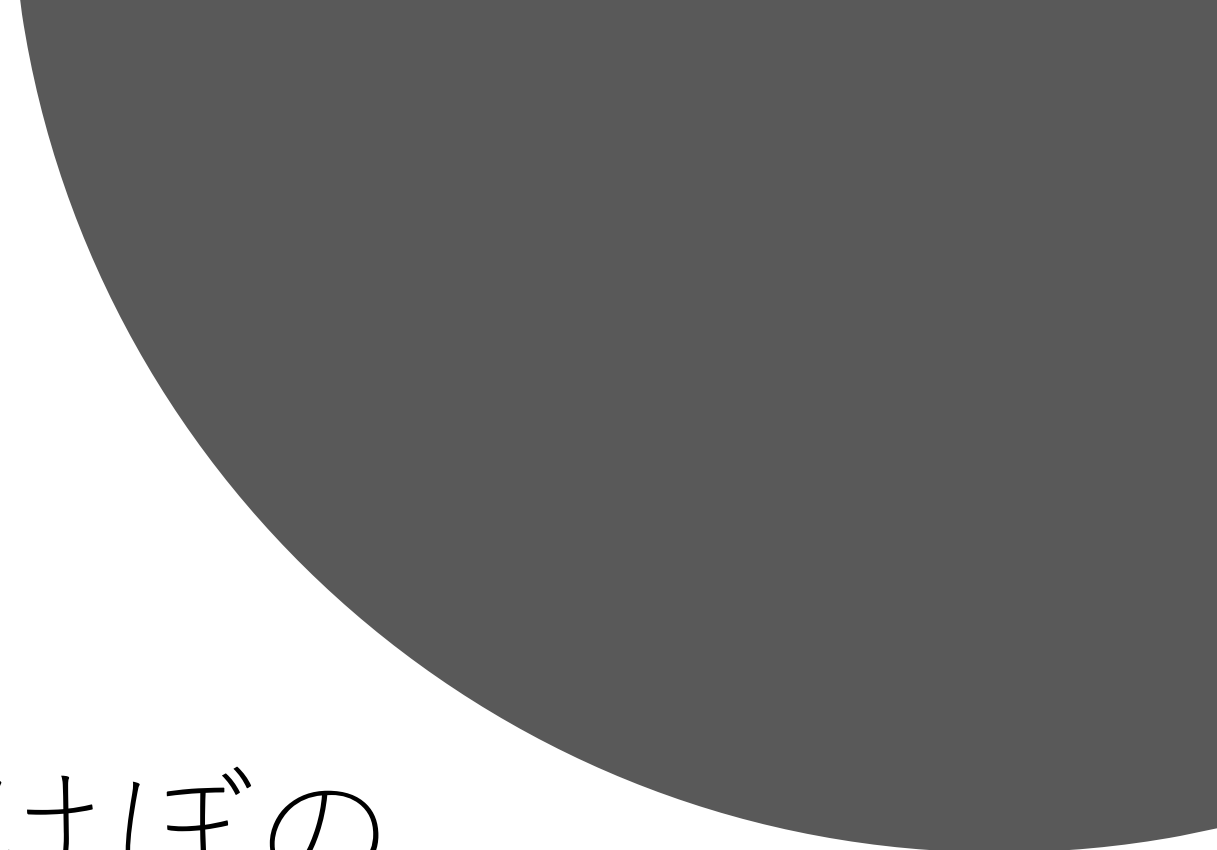
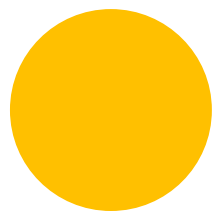
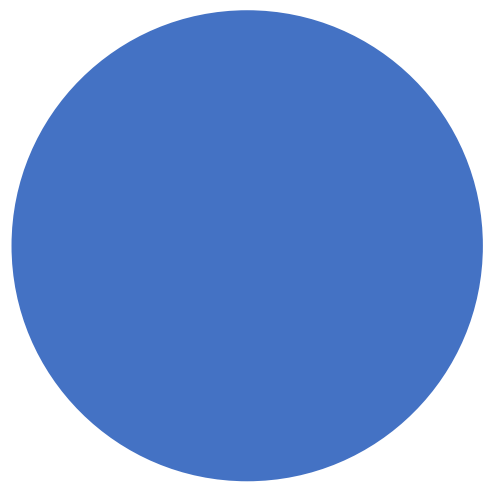
# ○本日お話しすること

- ① 藤沢市民会館の建設に至る経過と  
建設の目的
- ② 藤沢市民会館の果たしてきた役割
- ③ 今後への期待



1. 藤沢市民会館が  
できるまで

---



# (1) 藤沢文化のあけぼの ～市内文化団体の誕生



## (1) 藤沢文化のあけぼの～市内文化団体の誕生①

- 1950(S25)年 **湘南コール・グループ**発足
- 1951(S26)年 鵜沼公民館開設
- 1952(S27)年 **湘南市民コール**  
→同年8月第1回定期演奏会  
会場は湘南高校講堂
- 同年5月 「第1回藤沢市展」 開催

(1) 藤沢文化のあけぼの～市内文化団体の誕生②

1959(S34)年 **藤沢市民交響楽団** 設立

→1960(S35)年6月「第1回定期演奏会」

開催（会場は鵠沼公民館）

・第2回以降の会場は、鵠沼公民館、秩父宮記念体育館、湘南高校講堂、鵠沼中学校体育館など。これは合唱団等も同じ。

# (1) 藤沢文化のあけぼの～市内文化団体の誕生③

1959(S34)年11月29日

## 第1回「藤沢市民音楽祭」開催

- ・会場＝秩父宮記念体育館
- ・主催＝藤沢市教育委員会・藤沢市音楽協会
- ・出演＝湘南市民コール、湘南コール・グリュン、藤沢市民交響楽団、藤沢ジュニアオーケストラなど18団体
- ・会場はその後、秩父宮記念体育館のほか、鵜沼沼中学校、藤沢・鵜沼洋小学校体育館で開催。

# (1) 藤沢文化のあけぼの～市内文化団体の誕生④

1961(S36)年

## 演劇鑑賞団体「湘南市民劇場」創立

- ・ 1962(S37)年、第1回例会として、新制作座公演を秩父宮記念体育館にて開催。観客動員1,200人。藤沢会員700人。
- ・ 2回以降7年間の会場は平塚市民センター。



(1) 藤沢文化のあけぼの～市内文化団体の誕生⑤

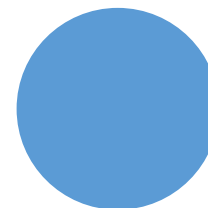
1962(S37)年10月

「藤沢市文化団体連絡協議会」発足

参加団体 = 美術家協会、書道協会、華道協会、  
写真家協会、音楽協会、市民短歌会、  
俳句協会、史談会、茶道八日会、謡曲協会、  
邦楽舞踊協会の11団体

## (2) 市民会館建設 に向けた動き

---



# ① 1960(S35)策定の「藤沢市 新市建設計画 基本計画書」で、**市民会館建設**を計画

【建設の理由】（「基本計画書」から抜粋）

本市は昭和30年4月近隣町村を合併するに及んで、湘南地方の教育、観光、産業等の名実ともに中心都市として、その役割は従来に比して更に一段と倍加した。このように合併後、従来の区域をこえた一体性を確保し、全市民が結束して新市を建設していくためには、その組織及び運営を合理化することが必要であり、そのためには市民が一堂に会し得ることのできる集合施設が必要である。

このことは市当局のみならず各種団体、市民から強い要望があり、且つ市内の大工場事業主等からも厚生会館的市民会館建設について要望があり、又一方その他の産業経済団体からも産業会館建設の強い要望もあって、近く予想される大企業等の進出による労働厚生施設の必要性を考へるとき、厚生会館を主とした総合会館建設の要があり、又社会教育の場としても常時市民に各種の機会を提供する必要があるので市民会館（総合会館）を建設する。」

## (2) 市民会館建設に向けた動き①

- ① 1964年(S39)4月、藤沢市役所が「企画管理室」を設置。市民会館建設調査を開始するとともに、同年5月、市民会館建設用地の交渉を開始。

## (2) 市民会館建設に向けた動き②

- ② 1964(S39)年1月、藤沢市文化団体連絡協議会が、5,378人の署名を添えて、市長に「**建設促進要望書**」を提出。
- ③ 同年9月、同協議会が、市長及び議長に「**藤沢文化センター-建設促進陳情書**」を提出。

# 「藤沢文化センター建設促進陳情書」【冒頭から抜粋】

「藤沢市は湘南随一の風光の美に恵まれ、また長い歴史に培われた高い文化を維持しております。同時に現在の学校及び社会教育の水準の高さは世人の等しく認めるところであります。

なかでも、市民の文化活動は年々活発になり、発表の場を持ち、広く市民に鑑賞の場を提供すべきなのに、当市には文化の発展並びに研究の根元となるべき文化センターがありません。

まことに画竜点睛を欠くと申しましようか、はた又花のない花園にたとへられるべき悲しき事実であります。（中略）

私達は一日も早く文化センターの建設を念願し、署名をもってその実現を陳情する次第であります。」

## (2) 市民会館建設に向けた動き③

- ④ 1964(S39)年9月、藤沢市文化団体連絡協議会が、議長に「**藤沢市文化会館建設促進についての請願書**」を提出 → 同年12月、市議会で採択
  
- ⑤ 1965(S40)年1月、市議会が「**藤沢市市民会館建設促進特別委員会**」を設置（委員長：葉山峻氏）  
→ 市の企画管理室とともに基本構想の立案に取り組むこととなった。

## (2) 市民会館建設に向けた動き④

### ⑥1966(S41)年3月、市民会館建設「基本構想」を策定

- ・建設予定地は、中央図書館・秩父宮記念体育館隣接地（片瀬中学校校舎跡）とし、大ホール・中ホール・会議室・結婚式場等を備える。
- ・建設の目的＝「全市民の福祉の増進、文化、教養の向上、産業、観光の開発等、多目的な活動を推進する総合会館を建設し、市民意識の高揚をはかり、市民の創造的エネルギーを増進する。」



## (2) 市民会館建設に向けた動き⑤

- ⑦ 1967年(S42)3月、「**実施設計**」策定
  - ・ 飛島建設と工事請負契約を締結
  - ・ 起工式実施 (3月16日)

# 【「広報ふじさわ」1967(S42)年3月10日号から抜粋】

「市民会館はなぜ必要なのか。どのような目的で市がこれを建てようとしているのか、考えてみましょう。

それは一口でいえば、市民に都市生活に必要なあらゆる集会活動の場を提供しようということです。

人口がふえ、都市化が進んでくると、そこには、よい演劇をみるために集まろうとしたり、すぐれた音楽をきくために、娯楽・慰安のために、生活の知恵を語りあうために、学習・研修の目的のために等々、社会的、経済的魅力を追って、市民のいろいろな集まりが生まれてきます。このように都市集会活動は、極めて多種、多目的です。したがって、その機能は、劇場であり、公会堂、音楽堂、映画館、労働会館、勤労会館等々の多種多目的の使用にたえられる複雑さが要求されてきます。しかし、中小都市では、これらの専門化した施設を、みんなつくることは、とうていできません。また、それを十分に運営していく、むずかしいことでもあります。いいかえれば、専門の劇場、音楽堂をつくるよりも、さまざまに異なった種類の機能を、ひとつの施設に、できるだけ効果的に集約しようという目的をもつだけに、市民会館をつくるということは、実は非常にむずかしさがあるといえましょう。

藤沢市民の文化水準は非常に高いとされています。したがって、市民会館の機能も、この高い文化活動が十分に発揮され、つくり出す場として、また気がるに会合もできるように、とくに気を配りました。（以下略）」

# (3) 市民会館 の誕生

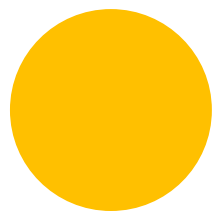
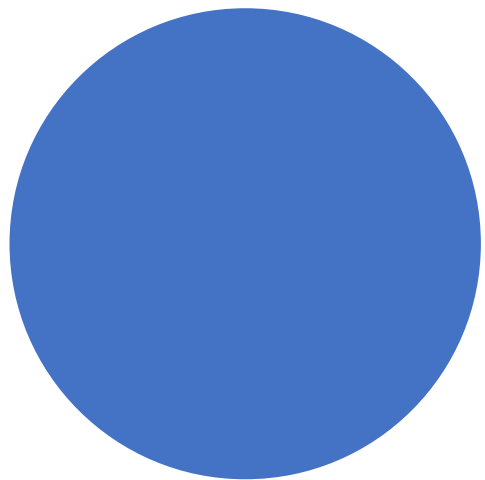


### (3) 市民会館の誕生

②1968(S43)年7月、建設工事竣工（工期1年4か月）

③同年10月 **藤沢市民会館 開館**

- ・敷地面積約18,400m
- ・総工費6億5千万円  
（一般財源2億5千万円、県補助金1億円、起債3億円）
- ・主な機能（「広報ふじさわ」から）  
= 大ホール（1,444席）、小ホール（434席）、展示室  
兼レセプション・ホール、会議室、結婚式場、食堂、  
事務室



## 2. 市民会館の歴史と 果たしてきた役割



# (1) 市民会館と関連施設の歴史

- ①1984(S59)年、第一展示集会ホール、レストランを増設
- ②1990(H2)年10月、湘南台文化センター市民シアター(600席)を開設
- ③1999(H11)年、市民会館結婚式場の廃止
- ④近隣市のホールの誕生
  - ・茅ヶ崎市民文化会館(1980(S55)年10月)
  - ・グリーンホール相模大野(現 相模女子大学グリーンホール)(1990(H2)年1月)
  - ・鎌倉芸術館(1993年(H5)10月)

## ④近隣市ホールの誕生

### ・大和市文化創造拠点シリウス (2016(H28)年11月)

#### 「心に響く・心が躍る・心をつなぐ」

大和市文化創造拠点は、子どもから大人まで多くのみなさまに、芸術文化や生涯学習の素晴らしさ、新しい知識・人々との心弾む出会いをお届けし、みなさまの心に一体感を生み出す場として誕生しました。

中核を成すのは、図書館、芸術文化ホール、生涯学習センター、屋内こども広場。4つの施設はそれぞれの個性の融合により更なるエネルギーを生み出し、未来につながる創造力を育むとともに、みなさまの芸術文化活動の道標となり、日々進化を遂げてゆきます。(シリウスHPから)



## (2) 市民会館の果たしてきた役割

- ① 各種文化団体の成果発表の場
  - ② 音楽や演劇などの鑑賞機会提供の場
  - ③ 成人式など各種イベントの開催、企業や市民の集会・会議・宴会等の場
  - ④ 結婚式場（30年間で延べ11,240組挙式、1999年廃止）
  - ⑤ 利用者数（昭和43年度～平成30年度累計）合計19,309,183人  
（年平均386,184人）
- ※ 大和市文化創造拠点シリウスは、開館2年7か月で来館者800万人を突破（年間平均で約300万人）。



# 藤沢市民会館 利用者数

## (昭和43～平成30年度 合計)

区分	大ホール	小ホール	第1展示 集会ホール	第2展示 集会ホール
利用者数	9,339,103	3,141,287	1,474,183	2,039,033
比 率	48.4%	16.3%	7.6%	10.6%
年度平均	186,782	62,826	46,068	40,781
区分	会議室・集会室	結婚式場	その他	合計
利用者数	2,473,728	506,997	335,012	19,309,343
比 率	12.8%	2.6%	1.7%	100.0%
年度平均	49,475	16,355	6,700	386,187

## (2) 市民会館の果たしてきた役割

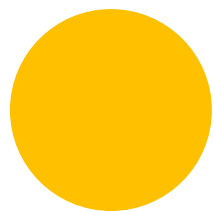
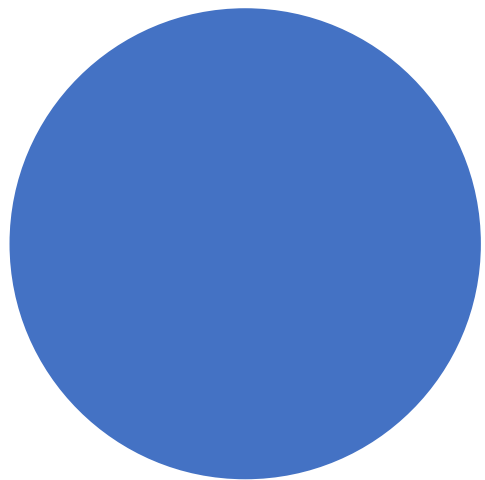
⑥「藤沢市民オペラ」など、藤沢独自の音楽文化の醸成  
→「文化のまち」としてのイメージを全国に発信

⑦文化ゾーンの中心施設として、南市民図書館、藤沢  
青少年会館、秩父宮記念体育館と共に、エリアの魅力  
を発信

→1969(S44)年、東急ドエルオクス、ドエルフェニックス建設

1974(S49)年6月、イトーヨーカ堂藤沢店オープン

1976(S51)年11月、東急ハンズ全国第1号店として  
藤沢店が開店 (2006(H18)年12月閉店)



### 3. 今後への期待



### 3. 今後への期待

- (1) エリアの特性を生かし、複合化によるメリットを創出する施設
- (2) 世代を超えた市民が集い、交流し、活動する場となる施設
- (3) 未来に向けた新たな「藤沢文化」の創造につながる施設
- (4) 藤沢駅周辺地区や市域全体の活性化にも資する施設

ご清聴ありがとうございました。